患者さん向け

IgA腎症とは



早めに見つけて、きちんと治療をすることが腎臓を守るためにとても大切です

IgA腎症は、腎臓の中にある「糸球体」という血液をろ過する部分に炎症が起こる病気です。日本では最も多い慢性糸球体腎炎で、比較的若い世代に多くみられます。この病気の特徴は、初期にはほとんど自覚症状がないことです。そのため、多くの方は学校検尿や健康診断で「血尿」や「たんぱく尿」を指摘されたことがきっかけで見つかります。IgA腎症は人によって経過が大きく異なります。長い間腎機能が保たれる方もいれば、炎症が続くことで少しずつ腎臓の働きが低下する方もいます。以前は、病気が進行して透析が必要になる方も少なくありませんでしたが、近年では治療法が大きく進歩しています。

現在では、血圧を適切に管理する薬や腎臓を保護する薬、新しいIgA腎症治療薬などを組み合わせることで、腎臓の働きを長く保てる患者さんが増えています。

そのため、「血尿だけだから大丈夫」と自己判断せず、早めに腎臓専門医へ相談することが大切です。早期に診断し、適切な治療を始めることが、将来の腎機能を守ることにつながります。